

サハリン事務所現地レポート

2018年7月

(件名) 「メガパレスホテル主催“遠藤米七” 記念碑除幕式」

報告者：主査 梶山 雅生

7月19日メガパレスホテル中庭において同ホテル主催の“遠藤米七” 記念碑除幕式が開催され参加したので報告する。

遠藤米七氏（1875-1935）は日本統治時代の樺太において当時最大の建築会社であった「遠藤組」の創業者であり、樺太の社会基盤整備に大きく貢献した人物である。同氏の死後、現メガパレスホテル敷地内に記念像が建てられたが、時間の経過とともに像は失われ土台のみが残っていた。

2006年、メガパレスホテル建設の際に同氏と記念像について知った同ホテルのアン代表は、残された土台を守るため、ホテルの建設計画を変更してまで土台の修復を行った。そして、この度遠藤氏の功績を記した銘板を土台に設置したのである。この銘板は「遠藤氏の故郷である日本の業者に造って頂きたい」というアン代表の強い要望から道内業者が製作した。

今回、銘板設置にあたり道事務所も銘文作成や業者紹介などのサポートをさせて頂いた。後世に残る事業に携われたことを大変幸せに思うと同時に、約100年も前の日本人の功績に対し私財を投じてまで顕彰頂いたアン代表に改めて感謝致したい。



記念碑



アン代表



レセプション風景

(件名) サハリンの「廃棄物処理」について

報告者：主査 梶山 雅生

サハリンの廃棄物処理状況を調査するため、州営企業で地域オペレーター（州の廃棄物処理を管理監督する組織）でもある「廃棄物処理運営会社」を訪問しヒアリングを行ったので報告する。

ロシアでは国内の廃棄物の適切な処理（分別やリサイクル）を推進するため、2030年までの産業発展戦略を策定し様々な取り組みを行っている。サハリン州においても「廃棄物処理運営会社」を中心に廃棄物の管理体制（収集・運搬・処理・廃棄）の構築に取り掛かっている。

現在、一般家庭から出るゴミは各家庭では分別されず、地区毎に設置されたゴミ捨て場に廃棄される。各市町村（※注）が契約している廃棄物収集及び処理業者が各地区のゴミを収集し、自社で保有する廃棄物処理場に運搬、埋立て処理を行っている（サハリンには約16カ所の廃棄場がある）。

今年5月、試験的に分別専用ゴミ置き場を設置する取り組みを実施、ゴミはしっかりと分別され周辺住民の評判も良かったとのこと。2020年までにゴミの完全分別化を目指している。

サハリンでは年間約30万トンのゴミが分別されずに埋立て処理されている（一部は大陸に運ばれリサイクル処理）。分別が定着した後も当面は埋立て処理されることとなるが、経済成長と共に増加する廃棄物処理に対応するため焼却施設やリサイクル施設の導入も検討している。

今後、「廃棄物処理運営会社」は従業員を58名から200名程度まで増加させ、州の適切な廃棄物処理の推進に取り組んでいく方針である。

（※注）2019年からは市町村ではなく地域オペレーターが一括して管理。



市内のゴミ捨て場



試験分別ごみ置き場



ホルムスクにある埋立て場